

科目名	社会福祉原論
科目責任者	北川 清一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	<p>1. 「公助」としての社会福祉制度の本来の機能を確認しつつ、為政者が「自助」「共助」の必要を強調する問題性を、「生存権を保障する社会福祉」を切り口に再考する。具体的には「新しい社会的なリスク（本講義では「家族問題」に焦点化）」の実相を検証するため、岩田正美が論じる、専門性を無視した「ほぼ違法なケア」問題を取り上げ、本講義で講じる主題とする。</p> <p>2. 副題として、「流動化する家族」「液状化する家族」等のように評される昨今のわが国における「問題家族」から「家族問題」への「変容過程」に着目し、そこに依然として横たわる「自己責任論」「家族問題の個人化論」を超克する「家族支援」を社会福祉制度（分野）に取り込む際の手がかりについて、「家庭（≒家族）福祉論」の成立可能性を模索しながら探究する。</p> <p>3. 「国家の試験」に翻弄される大学等における社会福祉専門職の養成課程に内在する課題を整理し、本来あるべき「ボトムアップ（bottom up）志向」のソーシャルワーク実践および社会福祉組織運営のあり方を探究する。</p>
到達目標	<p>社会福祉学（ソーシャルワーク学）の研究方法の特徴を整理しながら、対人支援専門職として誠実に／真摯に対峙することを求められる生活課題（life tasks：発達課題、普遍的課題、状況課題の三層構造）の解消にいかに関与できるかについて、「民主化の発展に貢献する」「人権と権利の擁護に努める」ソーシャルワーカーとして保持すべき「専門性」と実践展開の「共通基盤（common ground）」を探究しながら検討してみたい。</p>
授業計画	<p>< 授業内容・テーマ等 ></p> <p>第1回目：社会科学の視座（social science foundation）とリベラルアーツ（liberal arts）によって育まれる社会福祉の理論と実践を繋ぐ視座の確認</p> <p>第2回目：ソーシャルワーカーの所属組織のソーシャルワーク化を目指すことの意義－「経験、勘、骨、直感（sense）」を重視する実践感覚を乗り越えられるか－</p> <p>第3回目：現代日本における家族構造の変動と特徴（その1）／「人と環境の接触面に生起する社会的事象」を読み解く</p> <p>第4回目：現代日本における家族構造の変動と特徴（その2）／超高齢・少子社会がもたらした家族問題（離婚・再婚、暴力、虐待、ヤングケアラー等）の諸相を読み解く</p> <p>第5目：社会福祉研究法（その1）／実践を科学化するための批判的思考（critical thinking）と研究方法（研究方法に関する基本文献から学ぶためのガイド）</p> <p>第6回目：社会福祉研究法（その2）／実践を科学化するための批判的思考（critical thinking）の日本的展開（児童養護施設実践を手がかりに）</p> <p>第7回目：社会福祉研究法（その3－1）／クリティカル・ソーシャルワークについて：多様性社会から提起された理論的枠組み</p> <p>第8回目：社会福祉研究法（その3－2）／クリティカル・ソーシャルワークについて：反抑圧的ソーシャルワークの日本的展開の可能性を考える－『脱「いい子」のソーシャルワーク』坂本いづみ他著、現代書館、2021年を手がかりに－</p> <p>第9回目：日本における家族問題への学問的接近（その1）／「家族関係学」「家族社会学」の論点の特徴と社会福祉学（家庭福祉論）への取り込みの意義</p>

	<p>第10回目：日本における家族問題への学問的接近（その2）／「家族心理学」「施設養護論」の論点の特徴と社会福祉学（家庭福祉論）への取り込みの意義</p> <p>第11回目：社会福祉と家族支援（その1）／ファミリーソーシャルワークとは—Mary Richmondの足跡から学ぶもの—</p> <p>第12回目：社会福祉と家族支援（その2）／日本社会の伝統的家族観とソーシャルワークの基本的視座（人間理解）との齟齬の意味を読み解く</p> <p>第13回目：家庭福祉論研究の変遷（その1）／岡村重夫の家庭福祉論</p> <p>第14回目：家庭福祉論研究の変遷（その2）／山崎美貴子の家庭福祉論</p> <p>第15回目：総括／厚生白書（1978年版）「家族は福祉の含み資産」、および、厚生白書（1986年版）「日本型社会福祉」のねらい（為政者の目論見）を読み解く—なぜ、「家族のあり方」を絡めて社会福祉（＝生存権保障施策）を論じるのか—</p>				
学修方法	当日配布する講義資料をもとに、関係する文献（論文）の解説と質疑応答を通じて社会福祉学（ソーシャルワーク学）の学問的視座の理解を含め、その共有に努めます。				
評価方法	講義の参加意欲、取り組み姿勢で評価します。				
課題に対するフィードバック	講義中の質疑応答を通じてフィードバックします。				
指定図書	『ソーシャルワーク実践研究』第20号、ソーシャルワーク研究所、2024年。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	講義の展開に応じて紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：毎回の講義時に配布する資料をもとに「ノート」の取りまとめに努めてください。 事後学修：講義内容を振り返り、関連文献等と照合しながら整理に努めて下さい。				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				

科目名	ソーシャルワーク論																																		
科目責任者	福田 俊子																																		
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春																																		
科目の位置付	6. 高度専門職連携をすすめ、その連携・協働を通じて、人々の健康・福祉・安寧に貢献できる。																																		
科目概要	本科目は、これまでにソーシャルワークに関する学修経験のない学生を対象とした「ソーシャルワークの導入科目」として位置づけられている。ソーシャルワーク実践の基盤となる理論やモデルの基本的な知識を修得することを通して、ソーシャルワークの「マイクロ・メゾ」領域における「事象の捉え方の枠組み」について理解を深めることを目的としている。																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの基本的なモデルやアプローチについて、その概略を説明できる。 2. ソーシャルワークの視点で自らの現場体験を捉えなおしすることができる。 3. 地域を基盤としたソーシャルワークの社会的・政策的背景を説明できる。 4. 地域を基盤としたソーシャルワークの展開方法と実践課題を説明できる。 																																		
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>福田</td> </tr> <tr> <td>第2回：社会福祉援助活動の視点</td> <td>福田</td> </tr> <tr> <td>第3回：個別支援における4つのモデル①</td> <td>福田</td> </tr> <tr> <td>第4回：個別支援における4つのモデル②</td> <td>福田</td> </tr> <tr> <td>第5回：海外における援助関係論の展開とバイステック</td> <td>福田</td> </tr> <tr> <td>第6回：支援過程における自己決定をめぐる諸課題</td> <td>福田</td> </tr> <tr> <td>第7回：社会福祉援助活動の基盤を形成する価値</td> <td>福田</td> </tr> <tr> <td>第8回：専門家であることを降りるということ</td> <td>福田</td> </tr> <tr> <td>第9回：イギリス・コミュニティケア改革とソーシャルワーク</td> <td>川向</td> </tr> <tr> <td>第10回：地域を基盤としたソーシャルワークの日本的展開</td> <td>川向</td> </tr> <tr> <td>第11回：ケアマネジメントの実践理論</td> <td>川向</td> </tr> <tr> <td>第12回：ケアマネジメントの実践課題</td> <td>川向</td> </tr> <tr> <td>第13回：コミュニティソーシャルワークの実践理論</td> <td>川向</td> </tr> <tr> <td>第14回：コミュニティソーシャルワークの実践課題</td> <td>川向</td> </tr> <tr> <td>第15回：IPW・多職種連携・協働の実践課題</td> <td>川向</td> </tr> </table>					第1回：オリエンテーション	福田	第2回：社会福祉援助活動の視点	福田	第3回：個別支援における4つのモデル①	福田	第4回：個別支援における4つのモデル②	福田	第5回：海外における援助関係論の展開とバイステック	福田	第6回：支援過程における自己決定をめぐる諸課題	福田	第7回：社会福祉援助活動の基盤を形成する価値	福田	第8回：専門家であることを降りるということ	福田	第9回：イギリス・コミュニティケア改革とソーシャルワーク	川向	第10回：地域を基盤としたソーシャルワークの日本的展開	川向	第11回：ケアマネジメントの実践理論	川向	第12回：ケアマネジメントの実践課題	川向	第13回：コミュニティソーシャルワークの実践理論	川向	第14回：コミュニティソーシャルワークの実践課題	川向	第15回：IPW・多職種連携・協働の実践課題	川向
第1回：オリエンテーション	福田																																		
第2回：社会福祉援助活動の視点	福田																																		
第3回：個別支援における4つのモデル①	福田																																		
第4回：個別支援における4つのモデル②	福田																																		
第5回：海外における援助関係論の展開とバイステック	福田																																		
第6回：支援過程における自己決定をめぐる諸課題	福田																																		
第7回：社会福祉援助活動の基盤を形成する価値	福田																																		
第8回：専門家であることを降りるということ	福田																																		
第9回：イギリス・コミュニティケア改革とソーシャルワーク	川向																																		
第10回：地域を基盤としたソーシャルワークの日本的展開	川向																																		
第11回：ケアマネジメントの実践理論	川向																																		
第12回：ケアマネジメントの実践課題	川向																																		
第13回：コミュニティソーシャルワークの実践理論	川向																																		
第14回：コミュニティソーシャルワークの実践課題	川向																																		
第15回：IPW・多職種連携・協働の実践課題	川向																																		
学修方法	講義、発表、討論を組み合わせる																																		
評価方法	プレゼンテーション 20%、授業への参加態度 20%、レポート 60%																																		
課題に対するフィードバック	授業中に適宜実施する。																																		
指定図書	学生と相談をして決めます。																																		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																														
参考書	授業時に適宜提示します。																																		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																														

事前・ 事後学修	・事前学修：テキストを熟読し、要点をつかみ、発表者は、レジюмеを作成する。(60分程度) ・事後学修：授業内の議論等を整理し、学修の要点をまとめる。(60分程度)				
オフィス アワー	研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。				

科目名	福祉思想	
科目責任者	福田 俊子	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋	
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする福祉の思想、倫理観を身に付け、研究・実践・教育に反映することができる	
科目概要	我が国における少子高齢社会の到来は、日本社会のあり方を根底的に揺さぶる事象となっている。このような状況にある今だからこそ、社会や人の基盤を支える「思想」が、改めて重要な意味をもつようになってきている。 本科目では、現代の日本社会が直面する問題を見据えながら、これまでの福祉思想の歴史を振り返り、今後の日本社会で求められる福祉思想のありようについて考察する。	
到達目標	1. 福祉思想の歴史について、その概略を説明できる。 2. 自らの臨床体験を支える「尊厳」について、自分の言葉で考えることができる。 3. 各自の研究テーマにあわせた文献研究の手法を身につけ、社会福祉思想史での位置づけを表現できる。	
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：援助者の思想①（マイノリティの語り）</p> <p>第3回：援助者の思想②（語りと社会正義）</p> <p>第4回：援助者の思想③（語りと暴力）</p> <p>第5回：援助者の思想④（対話と語り）</p> <p>第6回：「尊厳」という概念</p> <p>第7回：ソーシャルワークと尊厳①（高齢者福祉制度と尊厳）</p> <p>第8回：ソーシャルワークと尊厳②（障害者福祉における尊厳）</p> <p>第9回：福祉思想史研究の位置づけと方法</p> <p>第10回：欧米の社会福祉思想史①慈善・慈恵救済思想、人権思想</p> <p>第11回： 〃 ②博愛思想・ボランティア、社会事業思想</p> <p>第12回： 〃 ③現代社会福祉思想、福祉国家思想 等</p> <p>第13回：日本の社会福祉思想史①近代以前、明治期、大正期</p> <p>第14回： 〃 ②戦後期、20世紀、現代</p> <p>第15回：まとめ：各自の研究テーマに活用するために</p>	<p style="text-align: center;">＜担当教員名＞</p> <p>福田</p> <p>福田</p> <p>福田</p> <p>福田</p> <p>福田</p> <p>福田</p> <p>福田 福田</p> <p>坂本</p> <p>坂本</p> <p>坂本</p> <p>坂本</p> <p>坂本</p> <p>坂本</p> <p>坂本</p>

学修方法	講義、発表、討論を組み合わせる				
評価方法	プレゼンテーション 20%、授業への参加態度 20%、レポート 60%				
課題に対するフィードバック	授業のリアクションペーパーに対してコメントをする				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	リンダ・ジンガロ『援助者の思想』御茶ノ水書房 加藤泰史・小島毅『尊厳と社会上・下』法政大学出版局 吉田久一・岡田英己子(2000)『社会福祉思想史入門』勁草書房 金子光一(2005)『社会福祉のあゆみ』有斐閣 吉田久一(2015)『日本社会事業小史社会事業思想の成立と挫折』勁草書房 フレデリック・G. リーマー(著)秋山智久(監訳)(2020)『ソーシャルワークの哲学的基盤理論・思想・価値・倫理』明石書店 岩田正美(2024)『私たちの社会福祉は可能かー社会福祉をイチから考え直してみる』有斐閣				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	履修者は全員、事前配布資料を読みし、要点をつかんでおく。(30分程度) 発表者は、レジュメを作成する。(1時間程度)				
オフィスアワー	研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。				

科目名	社会福祉政策論																														
科目責任者	川向 雅弘																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋																														
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。																														
科目概要	社会福祉政策の概要について、複数の社会福祉領域から、政策形成の要因と特徴を、社会・経済的な社会情勢と歴史的背景とともに理論的に考察する。																														
到達目標	社会福祉政策の形成、成立にどのような社会的要因が影響、関連しているのかを理解し、その政策が社会福祉の価値と原則である人間の尊厳の尊重と社会正義を実現し得るのか、その実現のために社会福祉は何を教訓とするべきなのか、社会福祉政策を通して現代社会を理解し、自身の研究領域に引き付け考察し、自身の意見を持つことが到達目標である。																														
授業計画	<p><担当教員名> 川向雅弘、野田由佳里、佐藤順子、大場義貴、泉谷朋子</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table> <tr> <td>第 1 回：地域福祉の政策 1</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：地域福祉の政策 2</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：地域福祉の政策 3</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：子ども家庭福祉の政策 1</td> <td>泉谷朋子</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：子ども家庭福祉の政策 2</td> <td>泉谷朋子</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：子ども家庭福祉の政策 3</td> <td>泉谷朋子</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：障害者福祉の政策 1</td> <td>川向雅弘</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：障害者福祉の政策 2</td> <td>川向雅弘</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：障害者福祉の政策 3</td> <td>川向雅弘</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：高齢者福祉の政策 1</td> <td>野田由佳里</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：高齢者福祉の政策 2</td> <td>野田由佳里</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：高齢者福祉の政策 3</td> <td>野田由佳里</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：こども・若者支援の政策 1</td> <td>大場義貴</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：こども・若者支援の政策 2</td> <td>大場義貴</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：こども・若者支援の政策 3</td> <td>大場義貴</td> </tr> </table>	第 1 回：地域福祉の政策 1	佐藤順子	第 2 回：地域福祉の政策 2	佐藤順子	第 3 回：地域福祉の政策 3	佐藤順子	第 4 回：子ども家庭福祉の政策 1	泉谷朋子	第 5 回：子ども家庭福祉の政策 2	泉谷朋子	第 6 回：子ども家庭福祉の政策 3	泉谷朋子	第 7 回：障害者福祉の政策 1	川向雅弘	第 8 回：障害者福祉の政策 2	川向雅弘	第 9 回：障害者福祉の政策 3	川向雅弘	第 10 回：高齢者福祉の政策 1	野田由佳里	第 11 回：高齢者福祉の政策 2	野田由佳里	第 12 回：高齢者福祉の政策 3	野田由佳里	第 13 回：こども・若者支援の政策 1	大場義貴	第 14 回：こども・若者支援の政策 2	大場義貴	第 15 回：こども・若者支援の政策 3	大場義貴
第 1 回：地域福祉の政策 1	佐藤順子																														
第 2 回：地域福祉の政策 2	佐藤順子																														
第 3 回：地域福祉の政策 3	佐藤順子																														
第 4 回：子ども家庭福祉の政策 1	泉谷朋子																														
第 5 回：子ども家庭福祉の政策 2	泉谷朋子																														
第 6 回：子ども家庭福祉の政策 3	泉谷朋子																														
第 7 回：障害者福祉の政策 1	川向雅弘																														
第 8 回：障害者福祉の政策 2	川向雅弘																														
第 9 回：障害者福祉の政策 3	川向雅弘																														
第 10 回：高齢者福祉の政策 1	野田由佳里																														
第 11 回：高齢者福祉の政策 2	野田由佳里																														
第 12 回：高齢者福祉の政策 3	野田由佳里																														
第 13 回：こども・若者支援の政策 1	大場義貴																														
第 14 回：こども・若者支援の政策 2	大場義貴																														
第 15 回：こども・若者支援の政策 3	大場義貴																														

学修方法	講義と討議を組み合わせる。				
評価方法	レポート 60%、 討議への参加 40%で評価する				
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談を中心にフィードバックを行います。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテーマを学修し質問を用意する。(40分) 事後学修：講義内容を振り返る(40分)				
オフィスアワー	科目責任者への相談は、2705川向研究室で随時受け付ける。時間は初回授業で提示する。 担当教員への相談・連絡方法は、初回授業時に提示する。				

科目名	社会福祉実践研究
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 春semester
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	社会福祉学が社会科学の一つである以上、学問研究の領域と研究方法論が明確でなければならない。この科目では、さまざまな研究領域の研究への取り組みを身近にしながら理解し、自身の研究をどのような領域でどのような方法（論）もって科学的な研究として進めいくのかを明確にしていくことを目的とする。
到達目標	社会福祉学・研究の方法論は多様である。また、それは研究対象によっても規定される。この授業では、大学院を担当する各教員から、それぞれの研究領域における社会福祉の研究手法の講義をうけ、領域を超えた総合的な研究方法について学び、自身が想定している研究に反映させることを目標とする。
授業計画	<p><担当教員名> 川向雅弘、藤田美枝子、野田由佳里、佐藤順子、太田雅子、福田俊子、大場義貴、佐々木正和、泉谷朋子、篠崎良勝、内山敏、鈴木文子</p> <p><授業内容・テーマ等> 毎回の講義は、研究科各教員によるチェーンレクチャー方式で実施する。毎回の講義担当教員は初回オリエンテーション時に提示する。</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 川向雅弘</p> <p>第 2 回～13 回：講義 研究科各教員</p> <p>第 14 回・15 回：実証研究を行う上での留意点 ～院生自身の研究のグランドデザインを発表する～ 大場義貴／川向雅弘</p>

学修方法	講義と討議、課題発表を組み合わせる実施する。				
評価方法	レポート 60%、課題発表、討議への参加 40%で評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後にフィードバックする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学修 シラバスに示したテーマの学修 (40 分) 事後学修 講義内容を振り返る学修(40 分)				
オフィスアワー	科目責任者への相談は、2705 川向研究室で随時受け付ける。時間は初回授業で提示する。 担当教員への相談・連絡方法は、初回授業時に提示する。				

科目名	社会福祉実習
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位数 (90 時間) 選択 秋semester
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	実践現場 (フィールド) において実習を行う。自分自身の研究領域や隣接領域への理解を深め、現実の実践場を確認する。研究を開始するにあたっての導入としての科目である。本科目は大学院担当教員が個別に担当する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習機関の対象者への理解を深め、問題やニーズを特定する。 2. 実習機関の役割と機能、権利擁護、多職種連携の実際、組織管理運営体制、地域社会への働きかけ等の実際を理解する。 3. 実習機関や支援領域の政策と実践のつながり、政策的課題とソーシャルワークの役割を再検討し、問題意識を明確にする。
授業計画	<p><担当教員名> 川向雅弘、藤田美枝子、野田由佳里、佐藤順子、太田雅子、福田俊子、大場義貴、佐々木正和、泉谷朋子、篠崎良勝、内山敏、鈴木文子</p> <p><授業内容・テーマ等> 10 日間 (90 時間) の実習を行う。90 時間には事前学修・実習指導・事後学修が含まれる。本科目は大学院担当教員が個別に担当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学修 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習目標の設定・実習施設の決定 (2) 実習計画の立案 2. 実習指導 <p>実習中の討議や実習カンファレンスを通してフィードバックを行う。</p> 3. 事後学修 <p>実習記録・実習内容を振り返り、分析・評価する。</p>

学修方法	自ら実習計画を立案し、主体的に実習に取り組む。				
評価方法	実習目標の達成度 (70%)、実習記録 (30%)				
課題に対するフィードバック	課題に対するフィードバック 事前学修については、実習中の討議や実習カンファレンスを通してフィードバックを行う。また、実習記録の振り返りの機会を設ける。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	【事前学修】 実習機関が位置する社会福祉支援領域の政策動向と実践課題をまとめておく。 【事後学修】 実習・実習指導内容をふまえて、実習課題を明確にする。				
オフィスアワー	科目責任者への相談は、2705 川向研究室で随時受け付ける。時間は初回授業で提示する。 担当教員への相談・連絡方法は、初回授業時に提示する。				